

# 日本語学習者は雑談をどのように理解するか

## — 話題を理解する過程に注目して —

## Understanding how Japanese learners comprehend small talk

### — An Analysis on their listening process of topics —

任ジェヒ  
YIM Jaehee

#### 〔要旨〕

本論文は、日本語学習者における雑談の理解過程に注目したものである。日本語学習者が、話題展開および話題人物に対する理解が求められる雑談を、どのように理解し、理解過程においてどのような点に難しさを感じるのかを明らかにするために、中級・中上級レベルの学部留学生5名に、BTSJ収録の第三者を話題とする雑談の理解調査を実施した。その結果、学習者は、主に（1）人を指し示す表現、（2）話題開始部における話題転換表現、（3）言語および非言語表現における話者の視点を手がかりに、雑談を理解していることが明らかになった。また、主に（1）省略された表現が指し示す対象に対する理解、（2）引用発話内の表現が指し示す対象に対する理解、（3）多様な意味合いを持ち得る表現が指し示す対象に対する理解に難しさを感じており、それが原因となり、雑談を適切に理解できていないことが明らかになった。

**Key word:** 雑談 理解過程 話題 話題人物 困難点



## 1. はじめに

日本語教育では「特にコミュニカティブ・アプローチ以降、種々の理論、実践、教材において、学習者のコミュニケーション能力の育成が重視され」（任他、2018、1）、コミュニケーション能力が指し示す範囲も多様化してきた。それにともない、コミュニケーション能力育成の目的や意義も、当然ながら、Brown & Yule（1983）などが指摘する情報伝達機能（transactional）を超え、対人関係構築・維持機能（interactional）、さらには自己表現<sup>1)</sup>まで幅広い視点から論じられている。こうした人、もしくは人と人の繋がりに焦点を当て、コミュニケーション能力の育成や日本語教育の役割の背後にある重要な理念を論じた研究は多くあり、重要な示唆を多く含んでいる。

しかし、そういった理念に基づき、日本語学習者（以下、学習者）が遭遇するコミュニケーションの実態にアプローチした際に、私たちが注目すべき学習内容やそのための研究課題はどのように変わるのかといった視点は不足しているように思われる。Malinowski（1923）のいう「交感的コミュニケーション」（phatic communication）<sup>2)</sup>、すなわち目的もなく自由に交わされる、社会的交際で使われることばの重要性に関しては言及するにとどまっており、実践現場では依頼、謝罪、褒めなどといった達成すべき特定の目的がある発話行為が学習項目として取り上げられることが多い。学習者が遭遇するあらゆる場面で頻繁に行われる、特定の目的を有しないコミュニケーションとの乖離が教育課題として挙げられることと無関係ではないと考えられる。

2. で詳述するが、このような「交感的コミュニケーション」としての雑談（small talk）については、話題を中心とした雑談の本質や資料としての雑談の特徴をめぐる諸議論がすでに数多く行われている。にもかかわらず、学習者が雑談を行う際に、何をどのように産出および理解しているか、また、その際に何に困難を覚え、どのような工夫を凝らしているかといった学習者の実態が明確ではない。このような課題の改善をはかる一環として、本論文では、学習者の雑談の理解過程（プロセス）に注目し、話題展開および話題人物に対する理解が求められる雑談<sup>3)</sup>を、学習者はどのように理解し、理解過程においてどのような点に難しさを感じるのかを明らかにする。

## 2. 先行研究

言語学の分野において、「交感的コミュニケーション」（phatic communication）としての、特段意味のない雑談が「自然会話」、「日常談話」といったカテゴリーに入れられ、談話分析、会話分析、自然言語処理などさまざまな方法論や理論を用いて」（井出・村田、2016、v）<sup>4)</sup>研究されるようになったことを背景に、日本国内においても、社会言語学、社会心理学、人類学など多様な分野から、日本語による雑談をめぐるさまざまな研究が進められている。

雑談の本質そのものの解明を目的とした研究は、雑談に現れる話題に注目することが多く、「話題の開始、終了、転換のプロセスにみられる言語・非言語的特徴や、話題の推移の仕方、初対面

状況で選択される話題の修理」(村田他、2014、112)、また話題を基準とした構造の分析や類型化が主な課題とされている。たとえば、河内は「日本語の教科書には、勧誘や依頼といった状況に基づいた会話は多く扱われているが、雑談の談話の展開を指導したものは少ない」(河内、2003、41)ことを指摘し、「日本で生活する学習者が周囲の人々と親しくなる上で不可欠のもの」(河内、2003、41)である雑談に注目する必要性を論じている。具体的な方法として会話教育の中で雑談の話題展開を指導することを挙げ、その基礎的研究として、話題展開機能と話題開始の型を分析している。また、筒井は、雑談を「特定の達成すべき課題がない状況において、あるいは課題があってもそれを行っていない時期において、相手と共に時を過ごす活動として行う会話」(筒井、2012、33)と定義し、雑談の話題に焦点を当て、話題ごとの内容の種類とその話題を構成する連鎖組織の分析から雑談の構造を明らかにしている。これは「話題が次々に展開していくものであるため、話題の展開を理解することができなければ、コミュニケーションに支障をきたす」(河内、2003、41)という雑談の特徴が反映されていると考えられる。

ほかに、上記のような雑談の本質の探究を主目的とするものではないが、日本語母語話者同士もしくは日本語母語話者と非母語話者による雑談をデータとして用いた研究も数多くある。たとえば、伊集院(2004)は日本語母語話者と非母語話者による初対面会話における雑談を母語話者同士の雑談と比較し、スピーチスタイルシフトのメカニズムを分析しており、大津(2005)は親しい友人同士の雑談に生じるナラティブを分析し、創作ダイアログがどのように提示されるか、会話参加者がどのような形でドラマ作りに参加するかを論じている。さらに、近年では、非対面で行われる雑談に注目した研究(岡本、2016)もみられる。

話題を中心とした雑談の本質や資料としての雑談の特徴をめぐる諸議論は、会話教育、コミュニケーション教育などの発展に繋がる非常に重要な材料である。しかし、学習者が雑談を行う際に、何をどのように産出し、理解しているかについては議論が行われておらず、先行研究の成果が日本語教育現場に必ずしも還元されているとはいえない。

### 3. 方法

日本国内の大学に在籍中の中級・中上級レベルの学部留学生5名を対象に「その場にはいない第三者を話題とする雑談」を題材にした、約60分間の「雑談における話題および話題人物の理解調査」を実施した。調査協力者の詳細は表1の通りである。

表1 調査協力者の詳細

協力者	主な使用言語	日本語学習歴	日本滞在歴	学年(専門)
KNS01	韓国語・英語・日本語	10年 <sup>5)</sup>	10年	2年(政治・経済)
CNS01	中国語・日本語	5年	5年	4年(電子システム)
KNS02	韓国語	4年	4年	4年(言語学)
KNS03	韓国語・英語	4年	2年	3年(政治・経済)
KNS04	英語	7か月	4か月	1年(コンピューター工学)

以下の図1に示すように、調査協力者は、雑談を行う話者Aおよび話者Bと話題人物Cによって構成されている三者関係を、第三者として眺める立場に位置付けられている。

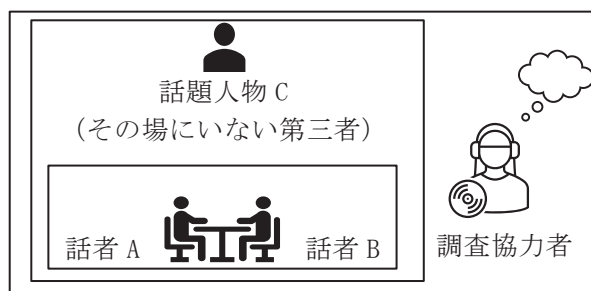


図1 調査実施のイメージ

調査に使用した雑談データは、『BTSJ 日本語自然会話コーパス (トランスクリプト・音声) 2018年版』に収録されているものである。利用申請をし、利用許可が得られた全333会話の中で、初対面会話、OPIインタビュー形式、特定の目的達成のための会話(依頼、謝罪、誘いなど)を除き、音声データを有する「日本人友人同士男女雑談、討論」(会話番号210-233)の中から、ある人物(その場にはいない第三者)に関する雑談が行われている3つのデータ(表2)を調査に用いた。

表2 調査説明と本調査に使用したデータの詳細

会話番号	データ特徴	ライン番号	使用目的	総会話時間
214-16	友人同士雑談(女女) 「学校生活」から話し始めるよう指示	98～149	調査説明	58秒
216-16	友人同士雑談(女男) 「学校生活」から話し始めるよう指示	1～52	本調査①	2分47秒
226-16	友人同士雑談(女女) 「学校生活」から話し始めるよう指示	83～164	本調査②	3分15秒

調査協力者には、フェイスシート記入後、一つの雑談の音声データ(会話番号214-16)を聞いてもらい、調査説明およびデモンストレーションを行なった。なお、調査に用いるデータの音質を考慮し、音声データを聞く際には、スクリプト<sup>6)</sup>を同時に見せた。約60分間の本調査①と②の実施においては、次の3点を依頼した。

- (1) 2種の雑談の音声データ(会話番号212-16、226-16)を聞く。スクリプトに、各発話について次の2点を書き込む(図2参照)。a. 誰についての話題なのか、b. 何の話題なのか。
- (2) 別紙にc. 音声データの登場人物(話し手・聞き手・第三者)の相関図を描く(図3参照)。c. を参照しながら、雑談の登場人物(話し手・聞き手・第三者)の関係を説明する。
- (3) スクリプトに書き込んだa. とb. を参照しながら、それぞれ判断した理由や根拠となった表現について説明する。

図2 KNS02によるスクリプト記入の一部



図3 KNS02による相関図の一部

調査実施後は、データを文字化し、調査協力者が作成したスクリプト ((a.) 誰についての話題なのか、(b.) 何の話題なのか) と相関図 ((c.) 音声データの登場人物 (話し手・聞き手・第三者)) を参照しながら、次の2つの観点から分析を行った。

- (1) 話題人物 (誰についての話題なのか) と話題 (何の話題なのか) をどのように捉えているか。
- (2) 適切な捉えに繋がらなかった場合、その原因は何か。

## 4. 結果

### 4.1 学習者における話題人物および話題の理解

4.1では、3. で述べた調査方法によって得られたデータを (1) 「話題人物と話題をどのように捉えているか」に注目して分析した結果を示す。以下に示す表3と表4は、結果の概要である。

表3は調査協力者5名の、「友人同士雑談 (女男)」(216-16) (山田あかり (女)、坂本 (男)) に対する理解を示したものである。表4は、協力者の都合により実施ができなかったKNS04を除いた調査協力者4名の、「友人同士雑談 (女女)」(226-16) (小池、吉岡) に対する理解を示したものである。表3と4の「話題」例は、調査実施者による分析で、調査協力者の理解との対照のために挿入したものである。表3「話題」列1-1、1-2のように色が付いている部分は、同一話題人物についての話題であることを意味する。話題人物と話題の認定は、データ理解の確認および話題区分の妥当性を確保するために、1次検討後、調査実施協力者に2次検討を依頼した。1次と2次の検討結果に相違がないかを確認した後、調査実施者と調査実施協力者2人で3次検討を行った。「発話内容」列の太字の表現は、話題人物を特定する際に手がかりとなった表現である。

では、調査協力者は、具体的に何を手がかりに、表3と表4のように話題人物と話題を捉えていたのだろうか。調査協力者の説明から、何を手がかりに理解したかがわかる部分を収集し、事例を集めた。その結果、主に (1) 人を指し示す表現、(2) 話題開始部における話題転換表現、(3) 言語および非言語表現における話者の視点を手がかりに、雑談における話題人物および話題を理解していることがわかった。

表3 本調査①の結果(調査実施者と調査協力者5名による話題人物と話題の理解)

ライン番号	話者	発話内容	話題	KNS01	KNS02	KNS03	KNS04	ONS01
1	坂本	なんで?、何く言ってるの?、いきなり笑いながら>><<。	1-1 佐藤-発表に 来なかった &教授から 佐藤に連絡 してくれると 言われる	1.佐藤-発表 に 来 な か っ た & 教 授 か ら 佐 藤 に 連 絡 し て く れ る と 言 わ れ る	1-1.佐藤-授業に こ な か っ た & 論 文 も 終 わ っ て い な い → 留 年	1-1.佐藤-佐藤(山 田 と 同 じ ク ラ ス で、 課 題 を 一 緒 に す る パ ー ト ナ ー)に、課 題 に つ い て メ ー ル を し た ら 「 俺 も 知 ら な か っ た 」 と 無 責 任 な 返 事 が 届 い た と い う 話	4.発表する予定 だったメンバー担 当分の仕事をしな かったから、その話 を先生に伝えてほ しいと山田にお願 いしていたという話	1-1.佐藤-留 年の話
2	山田	<だから、今日>><最後の授業で発表しなきゃいけないのに、 来なくて>><く笑いながら>..						
3	坂本	<に、#?ったん>><?>。						
4	山田	で、女の子1人、クラスの子に、(うん)メールして、なんか、その メールの内容が、あ、だから、なんか、「今日寝坊しました」っ つって、で、「論文やったら寝坊しました」っつって、しかも 「論文書きあがってない」、で、「これがどういう意味だか自 分でも分かりません」みたいな感じで笑いながら>。						
5	坂本	「留年します」っていう意味じゃないの?、<それく笑いながら						
6	山田	<で、せ>><、「先生に伝えてください」みたいなメールしてて。						
7	坂本	でも、自分で伝えなきゃいけないんじゃないの?。						
8	山田	でしょ?<ね>。で、皆がぶちきてたよ、今日。						
9	山田	くもうあの子は><。						
10	坂本	くでも、昔は>><。						
11	山田	留年だよ。						
12	坂本	佐藤の発表聞くために、集まったのに、佐藤が、ドタキャン だったんだ[確認する]。						
13	山田	そう。						
14	坂本	くでも>><。						
15	山田	くそう>><。						
16	坂本	あかり、よく学校行ったね、いつも来なかったじゃんく笑いながら>。						
17	山田	だってー、やばいもん。						
18	坂本	く終く笑い。						
19	山田	出席がやばいもん。						
20	坂本	え、佐藤は、留年?、もう。	1-2 佐藤- 佐藤の先生	1-2 佐藤-留年	3.先生/佐藤-佐 藤の友達がすべ きことを先生が やってくれる	3.あかり/佐藤-留 年(2人は真面目 にやっていた)	2.鈴木-発表 した話	
21	山田	うん、でもね、すごい先生がいい人なの。						
22	山田	なんか、その、佐藤ちゃんがメールした人もすごいいい人で、 授業終わった後に、その子がなんか先生に「え、佐藤ちゃん にどうし、佐藤ちゃんにどう言えばいいですか?」みたいな 、「どうすればいいですか?」ついたら、なんか先生も、「じゃ、 佐藤ちゃんのメールアドレス教えてくれれば私がメールしとく から」、みたいな。	2-2.山田- 留年	2.山田-留年	2-2.あかり-留年	4.鈴木/高橋(山田/ 佐藤と同じクラス で、鈴木と高橋は課 題を一緒にする パートナー)→明日 の発表のために論 文を作成したり、パ ソコンが壊れるな ど、色々大変だとい う話	4.鈴木-高橋-真面 目じゃない人たちだ けど、留年にならない ようにパソコンも 借りて頑張っている という話	3.鈴木-先生- 厳しい
23	坂本	うわー。						
24	山田	そんな、自分でやれていう話だよ、佐藤ちゃん。						
25	坂本	ね、ね、甘いね。						
26	坂本	《沈黙4秒》で、あかりは留年でしょ?。						
27	坂本	《少し間》あんた、ちょっと、ほんとと今年上がりなよー。						
28	坂本	でか、鈴木君、鈴木君なんかね、(うん)今日発表だったかな (うん)、確かそんなこと、アメフで言っていて、(うん)で、昨日の 夜、(うん)高橋のパソコンを借りて、(うん)なんか論文作って たんだって、(うん)夜パソコンが壊れたらしくて、(うん)もう、 だめだー”って言っていて、で、今日も、(うん)ちゃん行ったのかど うか怪しいね。						
29	山田	怪しいね。						
30	坂本	ねー						
31	山田	《少し間》とつぶん、鈴木くん>><[[。						
32	坂本	]]><同じ先生>><?>。						
33	山田	ううん、違う、違う、さっき違うつったじゃない。						
34	坂本	え、クラス違うと、え、授業の内容も似たようなもんじゃない						
35	山田	うん、でもねー、なんか、鈴木くんのクラスが先生が全然厳 しい。	4.鈴木のク ラスの先生- 厳しい	5.鈴木の先生- 厳しい	5.鈴木の先生-甘 くない。厳しい。	5.鈴木の先生-先生 が厳しいから鈴木 はいい成績をと ることができなかった 話	3.鈴木の先生 -厳しい	
36	坂本	あ、そうなんだ>><。						
37	山田	くあたし>><去年その先生だったの。						
38	坂本	あ、かわいそうに。						
39	山田	うん。						
40	坂本	へー、《少し間》でか、なんで俺の知りあいの言語学科はそうい うのばかり?	5.言語学科 の人たち-真面目 ではない	5.学科の人 たち-真面目 じゃない人し かない	6.坂本の友達-田 中さんと伊藤さ んとか	7.田中、伊藤-つ らい人だけじゃな い。伊藤と田中は課 題を一緒にする パートナー	4.田中さんと 伊藤-正常な 人	
41	坂本	《少し間》ねー。						
42	山田	そんなことないよ。						
43	坂本	いやいやいやいやいやく笑いながら>。						
44	山田	あの、田中さん、とか、伊藤さんとか。						
45	坂本	これ、だいぶ微妙な味だよな[何か食べている]。	6.食べ物-味 が微妙	6.食べ物	7.食べ物-味	7.食べ物-微妙な味	8.食べ物	5.食べ物の 話
46	山田	え、でもおいしいよ。						
47	坂本	そう、じゃー、よかった。	1-3 佐藤- 佐藤留年の 可能性がある	1-2 佐藤-佐藤に ついて	1-4 佐藤-同じ高校 に通っている別のク ラスの子から、佐藤 はおかしい子じゃ ないと聞く	7.田中、伊藤-つ らい人だけじゃな い。伊藤と田中は課 題を一緒にする パートナー	2-2 佐藤-そんな に悪いやつではない という話	1-2 佐藤-佐 藤の話
48	山田	《沈黙2秒》ね、佐藤ね。						
49	坂本	どうすんくらうね>><。						
50	山田	<昨日>><。						
51	坂本	やばいんじゃない?						
52	山田	昨日ー、(うん)言語学科の子と一緒に帰って、その子も、「佐藤 そんな子じゃなかった>><つってて>><。						



表4 本調査②の結果 (調査実施者と調査協力者4名による話題人物と話題の理解)

ライン番号	話者	発話内容	話題	KNS01	KNS02	KNS03	KNS04	ONS01
83	小池	]]あ、そう、藤井が一。	1-1.藤井-配属先決定	1.藤井-市役所に就職	1.藤井-配属先と仕事内容	1.藤井-趣味を活かして就職	(協力者の事情により)非実施	1.藤井-配属先
84	吉岡	うん。						
85	小池	なんだけ、あんね(うん)、配属先が決まったの。						
86	吉岡	まじで？						
87	小池	うん。						
88	小池	で。						
89	吉岡	看護？笑い。						
90	小池	けん…、待って、A市役所(うん)、健康福祉部(えっ)、障害福祉課事業係。						
91	吉岡	え、障害福祉？						
92	小池	うん、だって。						
93	小池	一緒に、とかいって思っちゃった。						
94	吉岡	だよね？						
95	小池	まじ、"私と一緒にやねーか"かと思って。						
96	吉岡	障害福祉課事業係って何やるの？						
97	小池	知らない、くさく全然わかんない(うん)。						
98	吉岡	くてもそういう(うん)、證書持ってる人の(うん)。						
99	小池	]]そっち系じゃないの？						
100	小池	なんか施設のなんかつか。						
101	吉岡	案内とか？						
102	小池	うん。						
103	小池	相談所とかそういうのじゃないの？						
104	吉岡	へー、心理が活かせるじゃない。						
105	小池	そうそう、だから、なんか心理活かせる部署書いて(うん)、なんか健康福祉部っていうのがすごい人気があるらしく、(ほー)みんなけっこう書いたのにな、(うん)入れたーとか言ってる。						
106	吉岡	え、やっぱり心理学でんことは無敵にはならないのかな？						
107	小池	ならないほしいよ。						
108	吉岡	うちのー、藤田研の一、あの、去年のM2[1]。	3-1.原田研究室-配属先決定	3.同じゼミの修士の先輩たち-内定もなかった話	3.共通の友達-1人は研究所、1人は長崎、1人は渋谷に就職	3.先輩2人-先輩の就職先		
109	小池	あー、あー。						
110	吉岡	1人は長崎で、スクールカウンセラーで、1人は渋谷の教育相談所だった。						
111	小池	まじで？						
112	小池	すごいね。						
113	吉岡	ありえない。						
114	小池	へー。						
115	吉岡	何それ？最後の最後まで全然決まらなかったのに。						
116	小池	へー、決まるものだね。						
117	小池	私も決まんなかなくて笑い。						
118	吉岡	なんかもう東京にいたいと思って(え)、東京で就職、も、無理じゃないのかなと思う。						
119	小池	え、東京で就職だよ。						
120	吉岡	東京離れること考えてたんだよね。						
121	小池	まじー？驚いたように(うん)。						
122	小池	なんで？						
123	吉岡	だって東京で就職ないじゃん。						
124	小池	心理(うん)まー、ね。						
125	小池	ひまー。						
126	吉岡	"スクールカウンセラーはまずない"と思ってたからー。						
127	小池	いやー、広まるんじゃない？なんだかんだ言ってる(うん)、結局。						
128	小池	話あんな感じがするな、そうはく言っても(うん)。						
129	吉岡	今東京を(うん)離れる理由っていうのはなんもないな。						
130	小池	ないよな。						
131	吉岡	離れるんだったら大学入る時に離れるもんね。						
132	小池	そうだね。						
133	吉岡	すごい###。						
134	小池	あー、私も帰れないからなー、こっから。						
135	吉岡	帰れない？						
136	小池	帰れない帰らない、この前話しちゃったよ、彼氏に。						
137	小池	二の前さ、一週間くらい(うん)実家帰って。						
138	吉岡	あー、帰ってたな。						
139	小池	で、第一、なんか、"大学どうするの？"とか話して(うん)。						
140	吉岡	あれ、第一、今年受験？						
141	小池	そうそうそう。						
142	小池	で、A大学[1](うん)かどうか受けるかと言って、スポーツ系受けたらとか言ってたけど、(うん)頭良くなくて国語、ができないから(うん)進路に悩むことになるかも、とか言ってる。						
143	吉岡	うち受けないの？						
144	小池	そんな頭がないって言ってた。						
145	小池	"社会学とか受けないの"って言ったら(あー)、"そんな頭は俺にはない"とか言ってたよ、で。						
146	吉岡	難しいもんね。						
147	小池	"どうするの"って、"え、ぶっちゃけさ、すごいなんか、すごいこんな年でこんな話をするの申し訳ないんだけど(うん)、あんた実家帰ってくんの？"って言ったら(うん)いや別に帰るよ"って言って、(あー)"全然こっから就職するし"とか言って。						
148	吉岡	あ、そう。						
149	小池	"じゃ、何は別にいいの？"って言ったら、"あー、いいよ"って。						
150	小池	"じゃ、まあ万が一、(うん)ほかにやりたいことができて(うん)、実家に帰らないってなったら(うん)、やるけどね"みたいな。						
151	吉岡	つうか出て行けって言われると、そんな、あんま出て行けない。	4-2.吉岡-実家から出る	3-2.吉岡-妹と話したこと	7.吉岡の妹-吉岡から一人暮らししてほしい	8.吉岡の妹-吉岡から卒業したい(自由になりたい)から、一人暮らししてほしいと言っている		
152	小池	1人暮らしろって言われるしよ？						
153	吉岡	いわ、あー、言われるつうか、あく美しい、妹に言われる。						
154	小池	く笑いながら(うん)、妹に…。						
155	吉岡	"お姉ちゃん早く出てよー"。						
156	小池	く笑いながら(うん)で？						
157	吉岡	弟もさー、とりあえず、私が院行ったらー、弟と同時に卒業になるわけ。						
158	小池	あー、あー、あー、うん。						
159	吉岡	だから、それよりは先に出て行ってほしいらしいよ。						
160	小池	なんで？						
161	吉岡	く笑いながら(うん)わかんないけど。						
162	吉岡	"狭いよ狭いよ"。						
163	小池	えー、いいね、妹。						
164	吉岡	ねー。						

シンジロ YIM Jaehnee

(1) 人を指し示す表現

調査協力者は、「佐藤ちゃん」や「鈴木君」など、人を指し示す表現を手がかりに、話題の転換を把握し、雑談における話題の展開を理解していた。たとえば、表5に示す「友人同士雑談(女男)」(216-16)に対するCNS01の発言が挙げられる。CNS01は「鈴木君」という「別の人の名前」を手がかりに、話題の転換を把握していたことがわかる。

表5「友人同士雑談(女男)」(216-16)に対するCNS01の理解(話題人物-話題)

ライン番号	話者	発話内容	CNS01
24	山田	そんなん、自分でやれっていう話だよ、佐藤ちゃん。	1-1.佐藤-留年の話
25	坂本	ね、ね、ね、甘いね。	
26	坂本	《沈黙4秒》で、あかりは留年でしょ?。	
27	坂本	《少し間》あんた、ちょっと、ほんと今年上がりなよー。	
28	坂本	てか、鈴木君、鈴木君なんかね、(うん)今日発表だったかな(うん)、確かそんなこと、アメフトで言ってる、(うん)で、昨日の夜一、(うん)高橋のパソコンを借りて、(うん)なんか論文作ってたんだって、(うん)夜一パソコンが壊れたらしくて、(うん)“もう、だめだー”って言って、で、今日も、(うん)ちゃんと行ったのかどうか怪しいね。	2.鈴木-発表した話

CNS01:28、あの一、別の人の名前が出てるから。多分話題が変わったと思います。

(2) 話題開始部における話題転換表現

調査協力者は、「この前さ」など、話題開始部における話題転換を指標する表現を手がかりに、雑談における話題の展開を理解していた。たとえば、表6に示す「友人同士雑談(女女)」(226-16)に対するCNS01の発言が挙げられる。CNS01は人を指し示す表現だけではなく、話題開始部における話題転換表現にも注目していたことがわかる。

表6「友人同士雑談(女女)」(226-16)に対するCNS01の理解(話題人物-話題)

ライン番号	話者	発話内容	CNS01
134	小池	あー、私もう帰らないからなー、こっちで。	2-3.小池-彼氏に実家に帰らないと話した
135	吉岡	帰んない?。	
136	小池	帰んない帰んない、この前話しちゃったよ、彼氏に=。	5-1.小池の弟-受験
137	小池	=この前さ、一週間くらい(うん)実家帰って、。	
138	吉岡	あー、帰ってたね。	

調査者:(前略)あの一、「原田研の」(表4ライン番号108を指す)があるから話が変わったと言っていましたけど、ここは「この前さ」だけど、ここでも話が変わりますか。

CNS01:「この前さ」も、あの一、話題の変わるのことはですよ。

(3) 言語および非言語表現における話者の視点

調査協力者は、言語および非言語表現に内包されている話者の主観的視点や客観的視点を手がかりに、雑談における話題の展開を理解していた。たとえば、表7「友人同士雑談(女男)」(216-16)に対するKNS02の発言が挙げられる。KNS02は、事実伝達のための表現と意見や感情を述べるための表現の違いを手がかりにしていることがわかる。



表7 「友人同士雑談（女男）」（216-16）に対する KNS02 の理解（話題人物 - 話題）

ライン番号	話者	発話内容	KNS02
1	坂本	なんで?、何<言>ってんの?、いきなり<笑>いながら><[<]>。	1-1.佐藤-授業に こなかった&論文 も終わってしない →留年
2	山田	<だから、今日><[>]最後の授業で発表しなきゃいけないのに、 来なくて><[<]>笑いながら>。	
3	坂本	<くに、##><ったん><[>]??。	
4	山田	で、女の子1人、クラスの子に、(うん)メールして、なんか、その メールの内容が、あ、だから、なんか、“今日寝坊しました”っ つって、で、で“論文やったら寝坊しました”っつって、しかも “論文書きあがってない”、で、“これがどういう意味だか自 分でも分かりません”みたいな感じで<笑>いながら>。	
5	坂本	“留年します”っていう意味じゃないの?、<それ<笑>いながら	
6	山田	<で、せ><[>]、“先生に伝えてください”みたいなメールしてて。	
7	坂本	でも、自分で伝えなきゃいけないんじゃないの?。	
8	山田	でしょ?(ねー)、で、皆がぶちきてたよ、今日。	
9	山田	<もうあの子は><[<]>。	
10	坂本	<でも、皆は><[>]。	
11	山田	留年だよ。	
12	坂本	佐藤の発表聞くために、集まったのに、佐藤が、ドタキャン だったんだ[確認する]。	
13	山田	そう。	
14	坂本	<でも><[<]>。	
15	山田	<そう><[>]。	

KNS02：1から6までほとんど説明でした。何か、自分の意見とか、何か「こうだった」との感情とか話すわけではなくて、こんなことがあった。そして、大変だった。ちょっと客観的なものだったし。そしては、7から15はほぼ文句。そして自分たちが何かやりたい話とか。自分の意見とか。それが多く出て。

ほかに、話者のパラ言語の変化を心理的視点の切換えと捉えていた KNS01 の発言も挙げられる。

KNS01：流れも少しあるんですけど、そのトーンと言いますか。話すトーンも少し違かったです。

このように、調査協力者は話題の転換を指標する手がかりとして、言語表現のみならず、非言語表現にも注目していた。しかし、ここで取り上げた3つの手がかりが常に雑談における話題の理解に繋がったわけではない。たとえば、(1) 人を指し示す表現には、固有名詞以外にも、人称代名詞、「修飾語 + 名詞」、「名詞 + の + 名詞」などの形式で現れるものがある。同一人物を示す異なる形式が別々の人物を指していると捉えた場合、同一話題が継続されていることが理解できないといった例もみられた。続く 4.2 では、調査協力者が理解過程において感じた難しさについて、話題人物と話題に対する理解が適切な捉えに繋がらなかった具体例から述べる。

## 4.2 学習者が理解過程において感じる難しさ

4.2 では、3. で述べた調査方法によって得られたデータを (2) 「適切な捉えに繋がらなかった場合、その原因は何か」に注目して分析した結果を示す。調査実施者による話題人物および話

題の分析とずれがみられた部分を収集し、調査協力者の説明を参照にその原因を探り、事例を集めた。その結果、主に(1)省略された表現が指し示す対象に対する理解、(2)引用発話内の表現が指し示す対象に対する理解、(3)多様な意味合いを持ち得る表現が指し示す対象に対する理解に難しさを感じたことが原因となり、話題人物および話題を適切に捉えていないことがわかった。ここでは、どの事例についてもこのうちのどの原因が中心になっているかを考え、便宜的に3つの中のどれか1つに分類するが、実際にはこの3つの原因を総合的に考える必要がある場合が多い。

### (1) 省略された表現が指し示す対象に対する理解

調査協力者は、人を指し示す表現が省略された際に、指示対象の把握に難しさを感じ、話題人物と話題を適切に捉えることができなかった。たとえば、表8に示す「友人同士雑談(女男)」(216-16)の話題1-1、話題1-3に対するKNS03の解釈が挙げられる。

表8「友人同士雑談(女男)」(216-16)に対するKNS03の理解(話題人物-話題)

ライン番号	話者	発話内容	KNS03
1	坂本	なんで?、何く言ってんの?、いきなり<笑いながら>>><[<]。>	1-1.佐藤-佐藤(山田と同じクラスで、課題を一緒にするパートナー)に、課題についてメールをしたら「俺も知らなかった」と無責任な返事が届いたという話
2	山田	<だから、今日>>>最後の授業で発表しなきゃいけないのに、来なくて>>><笑いながら>。	
3	坂本	<に、#>>>たんの?>>?>。	
4	山田	で、 <u>女の子1人、クラスの子に</u> 、(うん)メールして、なんか、そのメールの内容が、あ、だから、なんか、“今日寝坊しましたー”つつって、で、で“論文やったら寝坊しましたー”つつって、しかも“論文書きあがってないー”、で、“これがどういう意味だか自分でも分かりません”みたいな感じで<笑いながら>。	
5	坂本	“留年します”っていう意味じゃないの?、<それ<笑いながら>>><[<]。>	1-3.佐藤-これから留年するかもしれない&山田が佐藤の代わりに先生にメールをしようとしたが、先生が佐藤に直接メールをすることになったという話
6	山田	<で、せ>>>、“先生に伝えてください”みたいなメールしてて。	
16	坂本	<b>あ</b> かり、よく学校行ったね、いつも来なかったじゃん<笑いながら>。	
17	山田	だってー、やばいもん。	
18	坂本	<軽く笑い>。	
19	山田	出席がやばいもん。	
20	坂本	え、佐藤は、留年?、もう。	
21	山田	うん、でもね、すごい先生がいい人なの。	
22	山田	なんか、その、 <b>佐藤ちゃんがメールした人</b> もすごいいい人で、授業終わった後にー、その子がなんか先生に“え、佐藤ちゃんにどうし、佐藤ちゃんにどう言え(ば)いいですか?”みたいな、“どうすればいいですか?”つつたら、なんか先生も、“じゃー、佐藤ちゃんのメールアドレス教えてくれれば私がメールしとくから”、みたいな。	

KNS03: 何か、論文を書いて、ま、パートナーと一緒にすべきだったのに、メール出したら、「ああ、俺も知らない」とか、何か無責任な返事が来て、ああ、大変だった。

上記に示すKNS03の説明から、話者である山田が、発表を一緒にするチームメンバーの佐藤に、課題についてメールをしたと理解していることがわかる。しかし、「佐藤という人物が、女の子1人、クラスの子にメールをした」ことを、話者である山田が坂本に伝えており、山田と佐藤は同じクラスではあるが、発表を一緒にするチームであるかどうかは確認できない。KNS03は、表8ライン番号4の下線部分から、メールの送付者を示す表現を推測することができなかったとい

える。これにより、佐藤がメールをした人が、先生に佐藤について相談を行ったということも把握できなかった。しかし、調査終了後、ライン番号4についても一度質問をすると、KNS03は以下のように自己修正を行っていた。ライン番号22の下線部分「佐藤ちゃんがメールした人」より山田と佐藤が発表メンバーではないことに気が付いている。

KNS03：はじめては、あの、山田と佐藤がパートナーだったんじゃないかなと思ったんですけれども、そっちのことじゃなくて、佐藤と他の人がパートナーで、(後略)

以下のKNS04の説明からも発表者と佐藤が同一人物であることに気が付いていないことがわかる。表9は「友人同士雑談(女男)」(216-16)の話題1、2-1に対するKNS04の解釈である。

表9「友人同士雑談(女男)」(216-16)に対するKNS04の理解(話題人物-話題)

ライン番号	話者	発話内容	KNS04	
1	坂本	なんで?、何く言ってるの?、いきなりく笑いながら>><<。	1.発表する予定だったメンバー-担当分の仕事をしなかったから、その話を先生に伝えてほしいと山田にお願いしていたという話	
2	山田	<だから、今日>>最後の授業で発表しなきゃいけないのくに、来なくて>><<笑いながら>..		
3	坂本	<に、##ったん>>]??。		
4	山田	で、 <u>女の子1人、クラスの子に</u> 、(うん)メールして、なんか、そのメールの内容が、あ、だから、なんか、“今日寝坊しましたー”つつって、で、“論文やったら寝坊しましたー”つつって、しかも“論文書きあがってないー”、で、“これがどういう意味だか自分でも分かりません”みたいな感じでく笑いながら>。		
5	坂本	“留年します”っていう意味じゃないの?、<それく笑いながら>><<。		
6	山田	<で、せ>>]、“先生に伝えてください”みたいなメールしてて。		
7	坂本	でも、自分で伝えなきゃいけないんじゃないの?。		
12	坂本	<u>佐藤の発表聞かために、集まったのに、佐藤が、ドタキャンだったんだ</u> [確認する]。		2-1.佐藤-坂本の知合いの佐藤が発表をドタキャンした話
13	山田	そう。		
14	坂本	<でも>><<..		
15	山田	<そう>>]。		
16	坂本	<u>あかり</u> 、よく学校行ったね、いつも来なかったじゃんく笑いながら>。		
17	山田	だってー、やばいもん。		
18	坂本	<軽く笑い>。		
19	山田	出席がやばいもん。		
20	坂本	え、 <u>佐藤</u> は、留年?、もう。		
21	山田	うん、でもね、すごい先生がいい人なの。		
22	山田	なんか、その、 <u>佐藤ちゃんがメールした人</u> もすごいいい人で、授業終わった後にー、その子がなんか先生に“え、 <u>佐藤ちゃん</u> にどうし、 <u>佐藤ちゃん</u> にどう言えばいいですか?”みたいな、“どうすればいいですか?”つつつたら、なんか先生も、“じゃー、 <u>佐藤ちゃん</u> のメールアドレス教えてくれれば私がメールしとくから”、みたいな。		

KNS04：あの、山田さんがクラスの発表で、あー、他の女の子、人と、あー、一緒に発表するメンバーだったけど、(後略)

以上は、発話において主語に位置付く表現の省略により、話題人物の適切な理解ができなかった例である。後行文脈などから省略された表現が把握できていたら、話題も困難なく理解できたのではないかと推測できる。

(2) 引用発話内の表現が指し示す対象への理解

調査協力者は、人を指し示す表現が引用発話内のものなのか否かを見極めることに難しさを感じ、話題人物と話題を適切に捉えることができなかった。ここで引用発話内のものとは、引用標識を示す「って(言う)」や「とか(言う)」、引用発話を装う「みたいな」などをともなう、人を指し示す表現を意味する。たとえば、表10に示す「友人同士雑談(女女)」(226-16)の話題3-1、ライン番号147に対するKNS01の解釈が挙げられる。

表10「友人同士雑談(女女)」(226-16)に対するKNS01の理解(話題人物-話題)

ライン番号	話者	発話内容	KNS01
137	小池	≡この前さ、一週間くらい(うん)実家帰って、	3-1.小池-実家に帰って、弟と話したこと
138	吉岡	あー、帰ってたね。	
139	小池	で、弟にー、なんか、“大学どうすんの?”とか話してて(んー)。	
140	吉岡	あれ、弟、今年受験?。	
141	小池	そうそうそう。	
142	小池	で、A大学[↑](うん)かどっか受けるとか言って、スポーツ系受けたいとか言ってたけどー、(うん)頭良くなって国語、ができないから<笑い>私大になるかも、とか言って。	
143	吉岡	うち受けないの?。	
144	小池	そんな頭がないって言ってた。	
145	小池	“社会学科とか受けないの”って言ったら(あー)、“ <u>そんな頭は俺にはない</u> ”とか言ってたよ、で。	
146	吉岡	難しいもんね。	
147	小池	“どうすんの”って、“え、ぶっちゃけさ、すごいなんか、すごいこんな年でこんな話するの申し訳ないんだけど(うん)、 <u>あんた実家帰ってくん</u> の?”って言ったら(うん)“いや別に帰るよ”って言って、(あら)“全然こっちで就職するし”とか言って、	
148	吉岡	あ、そう。	
149	小池	“じゃ、何私は別にいいのかしら?”って言ったら、“あー、いいよ”って。	
150	小池	“じゃ、まあ万が一、(うん)ほかにやりたいことができて(うん)、実家に帰らないってなったら(うん)、やるけどね”みたいな。	

KNS01:「あんた」は小池で、小池が将来実家に帰ってくるかどうかについて聞いています。

が、「こんな年でこんな話するの申し訳ないんですけど」というのはよく分かりません。「こんな年」が小池の年なのか、小池の弟の年なのか判断ができません。

実施者:なるほど。じゃあ、弟が姉に「実家に帰ってくるの」って質問しているということですね。149の「私は別にいいのかしら」の「私」は誰のことだと思えますか。

KNS01:あ、小池の弟です。

上記のKNS01の説明から、姉である小池が弟に実家に帰ってくるかと聞いているのを反対に捉えていることがわかる。ライン番号145の下線部分の「俺」とライン番号147の「あんた」が同一人物を示していることが理解できていない。当該箇所に対するKNS03の以下の説明からも、適切な理解に繋がらなかったことがわかる。

KNS03:弟から実家に帰ってきて、帰ってくるのかどうかということを知られたという話。

実家の家族がたくさん話していたみたいです。具体的に誰がそれを言ったかについては出ていませんが(後略)

ライン 145 には「とか言ってた」、147 には「って言ったら」と、引用であることを指標する表現が用いられている。この表現が把握できていたら、話題も困難なく理解できたのではないかと推測できる。

### (3) 多様な意味合いを持ち得る表現が指し示す対象に対する理解

調査協力者は、文脈により多様な意味合いを持ち得る表現に難しさを感じ、話題人物と話題を適切に捉えることができなかった。ここで多様な意味合いを持ち得る表現とは、「自分」や「みんな」などのように文脈依存度が高く、談話参加者間の前提知識の共有があつてこそ理解可能な、多義性や曖昧性を有する表現のことを意味する。たとえば、表 11 に示す「友人同士雑談（女男）」(216-16) の話題 1 に対する KNS01 の解釈が挙げられる。

表 11 「友人同士雑談（女男）」(216-16) に対する KNS01 の理解（話題人物 - 話題）

ライン番号	話者	発話内容	KNS01
1	坂本	なんで?、何<言>ってんの?、いきなり<笑>いながら>>><>。	1. 佐藤-発表に 来なかった&教 授から佐藤に連 絡してくれると 言われる
2	山田	<だから、今日><>最後の授業で発表しなきゃいけないの<に>、来なくて ><><笑>いながら>..	
3	坂本	<に>、##<ったん><>!?。	
4	山田	で、女の子1人、クラスの子に、(うん)メールして、なんか、そのメール の内容が、あ、だから、なんか、“今日寝坊しましたー”つつて、で、で “論文やったら寝坊しましたー”つつて、しかも“論文書きあがってない ー”、で、“これがどういう意味だか <b>自分でも分かりません</b> ”みたいな 感じで<笑>いながら>。	
23	坂本	うわー。	
24	山田	そんなん、 <b>自分でやれって</b> いう話だよ、佐藤ちゃん。	
25	坂本	ね、ね、ね、甘いね。	

KNS01：この子が先生に言ったことなら、佐藤のことにもなりますし、先生が「佐藤は何で  
そういうことをしたの」と質問したなら、「私も佐藤がなぜそういうことをしたのかわか  
りません」という意味にもなりますので、questionable だと思います。

KNS01 と調査実施者が設定した話題の区切り（ライン番号の区切り）においては違いがあつたものの、談話全体の話題と話題人物の捉え方にはずれがみられなかった。しかし、上記に示す KNS01 の説明からわかるように、KNS01 がライン番号 4 の下線部分である「自分」に対しては正確に把握することができなかったことがわかる。ライン番号 24 の「自分」に対しても同様であった。

以上は、多様な意味合いを持ち得る表現が指し示す対象の適切な理解ができなかった例である。このように、表現に多義性や曖昧性がみられる場合、聞き手と話し手の間には、認識のずれが生じ、話題展開の理解を妨げる可能性がある。たとえば、話し手は、「みんな」が示す対象を某大学某学科という前提集合の中で顔を知っている一部の人に限ると捉えたとする。これに対して聞き手は、「みんな」が示す対象を某大学某学科という前提集合の全体だと捉えた場合、話題や話題人物に対する適切な理解は難しいと考えられる。

### 4.3 総合的考察

以上、学習者が話題展開および話題人物に対する理解が求められる雑談を聞くと、何を手がかりに理解し、どのような部分に難しさを感じるのか、またその原因は何かを述べた。調査結果をみると、雑談に現れる、ある表現が指し示す対象（本調査では、人物）に対する理解に難しさを感じる場合が多いことがわかる。指示対象を理解していく上で必要な「どのような時に」「誰が」「誰の視点に基づいて」「誰に」「誰のことを」「どのように」という要素の連動が適切に行われていないと解釈できる。その原因としては、主に次の二つが考えられる。

一つ目に、「行為者＝主語不在の傾向」（小林、2006、37）の現象が、談話、特に雑談において高い頻度で行われるため、上記の要素の連動が難しいことが考えられる。学習者には省略されているところを復元あるいは推測した上で、指示対象を判断することが求められているからである。

二つ目に、視点の二重構造を把握する必要性が考えられる。以下の図4は発話文に引用発話が挿入されていない基本状態を示し、図5は発話において引用発話文が挿入されている状態を示す。学習者には、図4の視点に基づいた「話し手、聞き手、話題人物」の把握だけでなく、図5の視点に基づいた「引用における話し手、聞き手、話題人物」の把握も求められる。基本状態において「どのような時に」「誰が」「誰の視点に基づいて」「誰に」「誰のことを」「どのように」という要素を連動させることも難しいことであるが、引用発話文が挿入された場合、その複雑さはさらに増すことになる。引用発話内において主語が省略される可能性が高いことも、雑談の理解の難しさに繋がっているといえる。

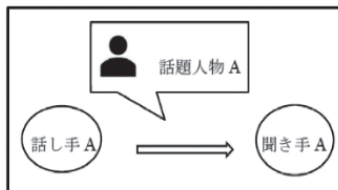


図4 基本状態

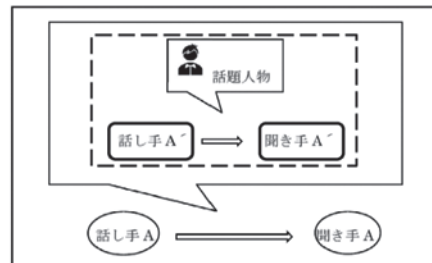


図5 発話内に引用発話が挿入されている状態

したがって、学習者が雑談における話題の展開を理解するには、ある表現が指し示す対象の判断に関わる視点を身に付ける必要がある。具体的には、次の二つを把握していく必要があるのではないかと考えられる。一つ目は、引用発話が挿入された状態とそうではない基本状態を区別した上で、「誰が」「誰の視点に基づいて」「誰に」「誰のことを」「どのように」という要素をどのように連動させていくかということである。二つ目は、一部の要素に省略がみられた場合、何を手がかりに、省略された情報を推測し、復元していくかということである。



## 5. まとめと今後の課題

本論文では、中級・中上級レベルの学習者が、雑談における話題および話題人物をどのように理解し、理解過程においてどのような点に難しさを感じるのかを明らかにすることを試みた。その結果、学習者は、主に（１）人を指し示す表現、（２）話題開始部における話題転換表現、（３）言語および非言語表現における話者の視点を手がかりに、雑談における話題展開および話題人物を理解していることが明らかになった。また、主に（１）省略された表現が指し示す対象に対する理解、（２）引用発話内の表現が指し示す対象に対する理解、（３）多様な意味合いを持ち得る表現が指し示す対象に対する理解に難しさを感じていることが明らかになった。

このように、学習者は、雑談を理解するとき、さまざまな表現あるいは非言語表現に注目しているが、それらが適切な理解に繋がらない場合もある。本論文では、その原因の一つとして、ある表現の指示対象を理解していく上で必要な、「どのような時に」「誰が」「誰の視点に基づいて」「誰に」「誰のことを」「どのように」という要素の連動が適切に行われていないことを挙げた。そして、学習者が雑談を理解する上では、（１）引用発話が挿入された状態とそうではない基本状態を区別した上で、上記の要素をどのように連動させていくか、（２）一部の要素に省略がみられた場合、何を手がかりに、省略された情報を推測し、復元していくかを把握することが重要であると述べた。

今後は、学習者が、雑談を理解する上で、「どのような時に」「誰が」「誰の視点に基づいて」「誰に」「誰のことを」「どのように」という要素の連動ができるようになるためには、どのような学習および指導が必要なのかについて分析を深めていく必要がある。そのほか、調査方法を再検討することも今後の課題として考えられる。今回の調査では、調査協力者に第三者の立場から雑談に参加してもらった。前提知識が少ない状態で話題を捉えることは、当事者として雑談に参加することより高度であったと思われる。今後は、学習者が当事者の立場で雑談を行う場面を収集し、理解過程を探っていく必要がある。

今回は、学習者が雑談における話題および話題人物を理解する過程に注目し、学習者が行う雑談の実態の解明を試みた。雑談を通じた人間関係の構築、維持は、留学生だけでなく、多くの学習者の社会参加や学習意欲の維持などに繋がる、極めて重要な課題である。今後、産出および理解の両面から、学習者が行う雑談の実態把握をさらに進め、日本語教育の現場に還元していく必要がある。

### 注

- 1) たとえば、熊谷・佐藤（2019、20-21）は、「コミュニケーションとは、その場に参加する者が相手としっかり向き合い（対話）ながら、ともに（協働）自分自身の目的達成（自己実現）を行っていくプロセスであると考える必要」があると指摘し、そのようなコミュニケーション

を実現させるためのイマージョン体験が教室活動として行われるべきだと述べている。

- 2) 「They fulfil a social function and that is their principal aim, but they are neither the result of intellectual reflection, nor do they necessarily arouse reflection in the listener. Once again we may say that language does not function here as a means of transmission of thought」(Malinowski, 1989/1923, 315).
- 3) 村田他(2014)が指摘するように、雑談は日常談話(non-institutional discourse)のみならず、制度的談話(institutional discourse)にもあるが、本稿は前者の日常談話を対象とする。
- 4) 井出・村田(2016, v)は、その多くが「日常的な「褒め」や「話題交代」、「コードスイッチ」といった分析事象を抜き出すために用いられ、雑談を構成する語用論的、行為連鎖的、社会言語学的側面」を捉えることに終始しており、雑談の本質の探求には至っていないという。
- 5) KNS01の場合、日本滞在歴10年であるために、学習歴も10年で記録しているが、インターナショナル・スクールに通ったため、教育機関で日本語を学んだことはほとんどないと述べていた。また、大学では中級レベルに相当する日本語クラスを受講している。それは、CNS01、KNS02、KNS03が受講しているクラスと同じレベルである。
- 6) 音声ファイルでは[人名][地名][学校名][学科名][部活名]が効果音に置き換えられているため、前後の文脈を把握することが難しいと判断し、仮名に置き換えた。人名の場合、人称代名詞(彼、彼女など)は元データのままとし、固有名詞のみ置き換え、人名であることがわかるように、太字で表記した。

#### 付記

- 1) 本稿は科学研究費「学習者の多様な言語生活に対応したバリエーション教育開発のための基礎研究」(若手研究課題番号20K13092)の研究活動の一部である。
- 2) 本稿は韓国日語教育学会・協働実践研究会(日本)協働開催2019年度(創立20周年)冬季国際学術大会(第36回)での発表内容に大幅に加筆修正を加えたものである。学会発表の際の共同発表者である江戸川大学三谷彩華氏にはデータ収集と分析にご協力いただいた。ここに記して感謝の意を表す次第である。ただし、本稿にあり得る誤りの責任は筆者に属するものである。

#### 参考文献

- 伊集院郁子(2004)「母語話者による場面に応じたスピーチスタイルの使い分け——母語場面と接触場面の相違——」『社会言語科学』第6巻第2号、2-26.
- 井出理咲子・村田和代(2016)「雑談とその諸相」村田和代・井出理咲子(編)『雑談の美学——言語研究からの再考——』序章 ひつじ書房 iii -xv.
- 任ジェヒ・平松友紀・蒲谷宏(2018)「日本語教育におけるコミュニケーション教育の現状と目指すべきもの」『早稲田日本語教育学』第25号、1-20.
- 宇佐美まゆみ監修(2018)『BTSJ 日本語自然会話コーパス(トランスクリプト・音声)2018年版』、国立国語研究所、機関拠点型基幹研究プロジェクト「学習者のコミュニケーションの多角的解明」、サブ・プロジェクト「学習者の日本語使用の解明」(リーダー:宇佐美まゆみ).
- 大津友美(2005)「親しい友人同士の雑談におけるナラティブ——創作ダイアログによるドラマ作

- りに注目して——」『社会言語科学』第8巻第1号、194-204.
- 岡本能里子（2016）「雑談のビジュアルコミュニケーション——LINEチャットの分析を通して——」  
村田和代・井出理咲子（編）『雑談の美学—言語研究からの再考』第3部 ひつじ書房 213-236.
- 河内彩香（2003）「日本語の雑談の談話における話題展開機能と型」『早稲田大学日本語教育研究』  
3号、41-55.
- 熊谷由理・佐藤慎司（2019）「コミュニケーション・アプローチをめぐる——ポスト・コミュニカ  
ティブ・アプローチがめざすもの——」佐藤慎司（編）『コミュニケーションとは何か——ポ  
スト・コミュニカティブ・アプローチ——』第1部第1章 くろしお出版 2-28.
- 小林修一（2006）「日本語における《話し手》の位相と主体性——「主語なし」文の背景から——」  
『東洋大学社会学部紀要』第43-2号（第77集）、37-54.
- 筒井佐代（2012）『雑談の構造分析』くろしお出版.
- 村田和代・井出理咲子・筒井佐代・大津友美（2014）「第32回研究会ワークショップ：雑談の美  
学を考える——その構造・機能・詩学をめぐる——」『社会言語科学』第16巻第2号、  
112-117.
- Brown, G. & Yule G. (1983) *Discourse analysis*. Cambridge:Cambridge University Press.
- Coupland, J. (ed.) (2000) *Small talk*. London:Longman.
- Malinowski, B. (1989/1923) The problem of meaning in primitive languages. In Ogden, K. & Rich-  
ards, A. (eds.), *The meaning of meaning:A study of the influence of Language upon thought and  
of the science of symbolism* (pp.296-336). San Diego, CA:Harcourt Brace Jovanovich.

